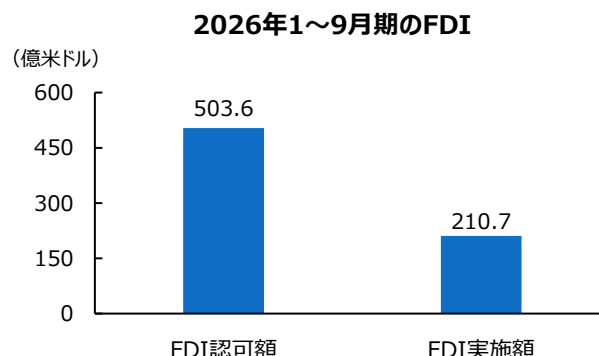
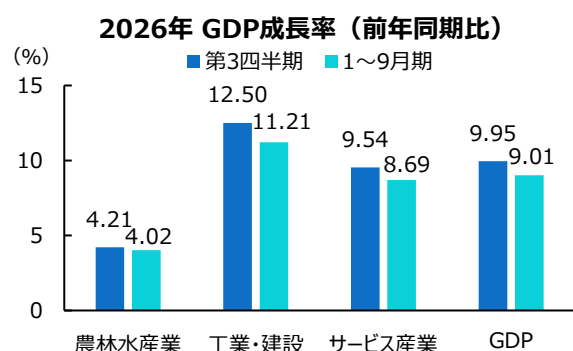


<ベトナム・リサーチ・レポート>

2026 年第 3 四半期 GDP 成長率は 9.95%へ加速

2026 年第 3 四半期（Q3）のベトナム実質国内総生産（GDP）成長率は前年同期比 +9.95%と、Q1（同 +8.15%）および Q2（同 +8.81%）を上回る加速を示した。1～9 月期の GDP 成長率は前年同期比 +9.01%に達した。Q3 の主な牽引役は工業・建設業であり、なかでもエレクトロニクス関連製品を中心とした製造業（同+12.28%）や、インフラ整備および大型プロジェクトからの需要増を背景とした建設業（同 +14.22%）が好調だった。サービス産業も同 +9.54%と堅調に推移した。



（出所）ベトナム統計局のデータを基にキャピタル アセットマネジメント作成

1～9 月期の総固定資本形成（投資）額は前年同期比 +15.1%となった。海外からの直接投資（FDI）認可額は前年同期比 +76.4%の 503.6 億米ドルと大幅に拡大した。また、FDI 実施額は同 +12.1%の 210.7 億米ドルと推定され、過去 5 年間で最高水準を記録した。そのうち、加工製造業が 174 億米ドルと 8 割強を占めた。新規認可額の中では加工製造業（133.8 億米ドル）に次いで運輸・倉庫業（51.4 億米ドル）も目立っており、グローバル製造業のサプライチェーンおよびロジスティクス分野における投資の拡大が確認されている。

1～9 月期の商品輸入額は前年同期比 +36.7%となり、輸出額（同 +24.5%）を上回った。これは、機械設備や原材料に対する強い需要を反映している。特筆すべきは、1～9 月は 194.2 億米ドルの貿易赤字が続いたものの、9 月単月では 12.7 億米ドルの黒字に転じたことである。

2026 年通期の GDP 成長率 10%以上という目標を達成するには、Q4 に 13%近い高成長が必要と試算される。達成の可能性は残されているものの、そのハードルは高い。今後は公共投資の執行加速、鉱工業生産、輸出、消費の動向が成長を左右すると見込まれる。一方、政府が推進する投資環境の改善や国有企業改革、ならびに民間投資・生産能力の拡大は、2027 年以降の成長基盤強化につながる。中長期的には、加工製造業、裾野産業、ロジスティクス、デジタル、エネルギーセクターでの投資機会が引き続き見込まれるほか、サプライチェーンの高度化、FDI 企業と地場企業の連携強化、人工知能（AI）を活用した生産性向上が、今後のベトナムの高成長を牽引する見通しである。

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。